

報道各位

北海道苫小牧市での木質バイオマス発電事業会社へ出資参画について



株式会社イワクラ(本社:北海道苫小牧市、社長:後藤英夫、以下「イワクラ」)は、三井物産株式会社(本社:東京都千代田区、社長:飯島彰己)、住友林業株式会社(本社:東京都千代田区、社長:市川 晃)、北海道ガス株式会社(本社:北海道札幌市、社長:大槻博)との共同出資により、北海道苫小牧市に苫小牧バイオマス発電株式会社(以下「新会社」)を設立し、木質バイオマス発電事業(以下「本事業」)を行うことについて本日、株主間協定書を締結しました。

本事業は、新会社が苫小牧市晴海町のイワクラに隣接する場所に発電規模約 5.8MW の発電設備を建設し、再生可能エネルギー固定買取制度(※1)を利用し発電事業を行うもので、2015年5月に着工、2016年12月の稼働を予定しています。

燃料となる木質チップには、北海道における林地の未利用木材(※2)を100%利用する計画であり、本事業の開始に伴い、新たに年間約6万トンの木材需要が発生する見込みです。これにより森林環境の整備が促進され、北海道における林業振興にも大きく貢献するほか、雇用の創出により地域の活性化にも寄与するなど、社会的な意義を幅広く有する事業となります。

イワクラは創業以来、木を原点とした事業に携わっており、環境方針として森林資源の有効活用を掲げています。この度、新世紀となる創業101年目のスタートの年に、新たなる創業の夢を拓く再生可能エネルギー事業に参画することになりました。長年の事業を通じて蓄積した木材に関するノウハウを大いに活用し、イワクラとしても木質燃料の集荷調達という大きな役割の一旦を担うこととなります。

イワクラは森林資源の有効活用として、マテリアル利用であるパーティクルボード事業を日本で最初に事業化し、さらに近年のエネルギー環境の激変に対してサーマル利用である木質ペレット事業にも参入しています。未利用木材の再資源化、木材資源の循環を推進することは、森林の再生・森づくりに繋がるものです。この事業参画によりイワクラとして更なる地球環境の保全と環境負荷軽減に貢献します。

※1 再生可能エネルギー固定買取制度:再生可能エネルギー(太陽光、風力、水力、地熱、バイオマス)を用いて発電された電気を、一定価格で電気事業者が買い取ることを義務付けた制度。

※2 未利用木材:間伐材や林地残材等の未利用資源(未利用の木材)

苫小牧バイオマス発電株式会社 概要

所在地	北海道苫小牧市晴海町 40 番 4
資本金	499 百万円
出資比率	三井物産株式会社 40% 株式会社イワクラ 20% 住友林業株式会社 20% 北海道ガス株式会社 20%
事業内容	木質バイオマス発電
使用燃料	林地の未利用木材 年間約 6 万トン
主要設備	流動層ボイラー、蒸気タービン発電機
発電規模	発電端出力:約 5.8MW(送電端出力:5MW)
年間発電量	約 40 百万 kwh(一般家庭約 10,000 世帯分の年間使用電力量に相当)
設備稼働予定	2016 年 12 月

以上

リリースに関するお問い合わせ先
株式会社イワクラ 環境事業部 担当者:中出 TEL:0144-57-5222 FAX:0144-57-3404